

石岡地区保護司会 会長賞

「明るい社会は箱の穴をふさぐこと」

東小学校 六年 石黒 心栴（いしくろ このか）

私は、本で読んだことの中で、一番心に残った話があります。それは、心の中には、箱があるという話です。喜んで、親切にしたりすると、箱の中に幸せが入ってきます。でも、人に悪いことをしたり、暴言をはいたりすると箱に穴があいて、幸せがこぼれていきます。その穴に気づかずにそのままにしておくと、幸せになれないのです。この話を読んでから、私は、箱に穴があかないように気をつけています。例えば、地域の方やクラスの子にあいさつをすることです。人を幸せにできるといことは、簡単なことではないと思います。一人一人が努力することとでみんなが幸せになれるのだと気づきました。

言葉は、とても不思議なものだと思

います。人を幸せにしたり、うれしくしたりすることもできれば、人をきずつけたり、いやな気持ちにさせることもできるのです。言い方次第で、いろいろな気持ちにすることができるとです。軽い気持ちで言ってしまうとしても、相手をきずつけてしまことがあります。

私が二年生のときに、いじめられて泣いてしまった子がいました。その子は、自分の名前に変なあだ名をつけられて、からかわれていました。そんなにふざけていじめをしても、心の中の箱には穴があき、幸せがこぼれ落ちていくだけです。いじめている子もいじめられている子も、まわりの子もつらい思いをしまい、決して幸せにはなれません。

罪を犯してしまった人は、きっと心の中の箱に穴があいている状態でしょう。もし、犯罪のニュースを見ているときにかげぐちを言ったり、文句を言ったりするとどうなるでしょう。その人が気づいていないとしても、箱の穴はもっと広がり、幸せももっとこぼれ落ちてしまいます。そうすると、また罪を犯してしまうかもしれません。あたたかい声をかけて、あいてしまった箱の穴に気づいてもらうことが大切なのです。そうすると、その人の箱にも幸せがたまっていき、まわりの人も笑顔になるでしょう。

自分のまわりに罪を犯してしまった人がいたら、とてもこわくて、話しかけたくないと思います。でも、明る

い社会を目指すためには、話しかけてあげるだけでも、穴をふさぐことの第一歩になるのではないだろうか。

話しかけることにはとても勇気が必要で、きんちょうもすると思います。でも、その一言で、罪を犯してしまっただ人が立ち直り、自分やまわりの人の箱にも幸せがたまっていくのです。

犯罪自体をなくすことは、とてもむずかしいことだと思います。でも、罪を犯してしまった人の心に寄りそい、あたたかい言葉をかけてあげることが箱の穴もふさぐことができるのではないだろうか。

罪を犯してしまった人の立ち直りを助け、幸せにすることが明るい社会につながると思います。

